

NY 市場レポート（前日 21 時 00 分～午前 5 時 30 分まで）

主要株価指数は続伸

米株式市場では、投資判断が引き上げられたアップルが上昇するなど、投資家心理が改善したことから主要株価指数は序盤から堅調な動きとなった。ただ、FOMC の結果発表を 5/1 に控えていることから様子見ムードもあり、上値は限定的だった。ダウ平均は、序盤から底固い動きが続き、時前週末比 166 ドル高まで上昇した。しかし、その後は下落に転じて一時 24 ドル安まで下落したものの、引けにかけて持ち直して 146.43 ドル高（+0.38%）で終了。一方、ハイテク株中心のナスダックは、55.18 ポイント高（+0.35%）で終了した。



セクター別変動率(ダウ平均)			個別の変動率(ダウ平均銘柄)		
	セクター	変動率		銘柄	変動率
1	資本財	1.07%	1	ボーイング	3.75%
2	素材	0.89%	2	アップル	2.48%
3	通信サービス	0.38%	3	アマジェン	2.37%
4	消費者サービス	0.37%	4	キャタピラー	1.87%
5	消費財	0.30%	5	アメリカンエキスプレス	1.39%

データを基に SBILM が作成

ドル円・クロス円は神経質な動き

アジア時間にドル/円が一時 160.20 まで上昇した後、断続的な円買いが持ち込まれて、154.54 まで急速な下落となるなど、ドル円・クロス円が大幅な下落となった流れが一服し、NY 市場ではドル円・クロス円は序盤から底固い動きとなった。米国の主要な経済指標の発表がなく新規材料に乏しい中、ドル/円は序盤に 156.88 まで値を戻したものの、その後は 155.10 まで再び急速に下落する場面もあり、神経質な動きが続いた。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様自身でお願いします。